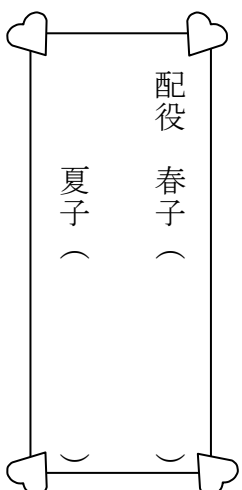


# 認知症かなと思ったら

(夏子が春子の家に回覧板を持ってくる)

夏子 「こんにちは、寒くなってきたなあ。」



いかんね。

春子 「あらあ、夏ちゃん久しぶりだねえ。ちよつと上がっていけば。」

夏子 「それなら久しぶりに少しよつていこうかなあ。おじやまします。」

(二人椅子に座る)

ようじゃね

春子 「それはそうと、少しやせたんじやない？」

夏子 「2〜3 kgやせたかなあ？」

いけんしたの

春子 「へえ！、どうしたの？ダイエットをしたの？それとも具合でも悪かったの？」

ちでちで

夏子 「違う違う、最近、色々あって。夜もゆっくり寝れていないのよ。」

ちいうて

春子 「立ってでも眠れるという夏ちゃんが夜も寝れないなんて、何かあったの？」

夏子 「それがなあ。最近お義父さんが変なのよ。」

と いげん変なのね？

春子 「変て？どんな風に変なの？」

ひどおなつてきね

夏子 「物忘れがだんだんひどくなってきてね。あれがねえ、これがねえ、言って

しよつ中、物を探してるのよ。」

言つちよつが

春子 「それは、わたしらだつてしよつちゆう、鍵がない、財布がないつて言つてな  
い。」

(顔を見合わせて笑う)

夏子 「そいが、そんなもんじゃなかとよ。」

夏子 「それが、そんなものじゃないのよ。」

なか なか

おっとられた

春子 「この前なんか、『財布がない、財布がない、誰かに財布を盗られた』って言

なかね

いだして最後には『あんたが盗ったんじゃないか』って言われて、結局は自

でっきてなあ

分が寝てる布団の下からでてきてね。腹が立つやら情けないやら・・・」

置きやったところを忘れるんやろね

春子 「自分が置いたところを忘れるんだろうね？」

そげんじゃつど

忘るっでな。

困ったもんよ。

夏子 「そうなのよ。最近はお飯を食べたことさえ忘れるからね。困ったもんだよ。」

そいは困いなあ

春子 「それは困るなあ。」

夏子 「ご飯を食べた後、『ごちそうさん』って言って部屋に帰ったかと思ったら、

まだね？

食べたがね

また出てきて『ご飯まだか？』って言うから『今、食べたよ』って言ったら、

『嫁がご飯を食べさせてくれない』って言うしなあ。言い出したらなかなか

こっちの言うことを聞かないのよ。」

春子 「それは大変だね。」

夏子 「前はこんな性格じゃなかったんだけどな。そんなこんなで、毎日お義父さん

に振り回されているのよ。」

春子 「それでも、夏子ちゃんのところにはお義母さんがいるでしょ？お義母さんが

世話をしているんじゃないの？」

夏子 「それがね、お義母さんはお義父さんのことを叱るばかりでね。シヤンとし

てた頃と同じようになんでもできると思うのかな。きつい言い方になるの

よ。それでお義父さんも怒り出すし、手が出るしで余計に大変なことになるのよ。」

春子 「仲がいいご夫婦だったのにね。いつまでも仲良くはいかないものなのかな。それなら、息子さんがいるでしょ？」

夏子 「息子？ああ主人ね。主人なんか『呆けたふりをしているんだ。甘やかすからいけないんだ』って言うだけなのよ。」

春子 「息子からすればそうなるのかなあ。  
そげんなつとかねえ  
じゃつで、

夏子 「だから、主人が相手をしたら、いつつも怒鳴り合いの喧嘩になってしまうのよ。この間なんか、備前焼の湯のみを投げて割ってしまったわ」

春子 「もったいないね。前は穏やかな人だったのに。なんでそんなことになるの  
ないごてそげなことに  
かなあ。」

夏子 「そうなのよ。優しく相手をしてあげればいいのだろうけど。夜中にゴソゴソしたり、出ていこうとするから、気になってゆっくり眠れないのよ。それで  
つついついきつく言ってしまうのよね。」

春子 お義父さんの気持ちに添ってあげればいいのだろうけど、なかなか優しくでき  
きないよね。ところで、お義父さんは病院で診てもらったの？  
そいがなあ。どけ病院へ連れ行っけばいいかわからんし

夏子 「そこなのよ。どこの病院へ連れて行けばいいのかわからないし、お義父さん  
どけも悪なかで  
行かん  
は、『どこも悪くないのに病院なんか行かない』って言うし、困っているの。」

春子 「それは困るね。そういえば、隣の秋ちゃんが、民生委員でしょ。この前、『認知症サポーターの講習を受けた』って言ったから相談してみたらいいよ。』  
よかが

行ってみっが。

夏子 「そうだね。明日にでも秋ちゃんところに行ってみるわ。春ちゃんに話を聞いて  
もろうたで、  
もらったから、少し気持ちが楽になったきがするわ。」

春子 「話ぐらいいつでも聞くよ。そうそう、今日、〇〇集会で『認知症』の話が  
きとったでしよ。  
みるが。

あるって言って回覧板がきてたでしよ。一緒に聞きに行ってみようよ。」

夏子 「そうだね。行ってみようかな。それじゃお義母さんも一緒に連れて行こうか  
なあ。」

そいがよか。

よかが。

春子 「そいがいいよ。お義母さんにも聞いてもらったらいいよ。じゃあ、またあと  
でね。」

